

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

No	氏名	授業科目名	単位数	配当開始年次	開講形態	内容
1	荒川尊祐	武道指導・評価法(空手道)	2	1	学部等共通科目	空手道教室の代表としての実務経験のある教員による授業。 学校教育における空手道の授業を念頭に置き学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法と評価法を学習する。具体的には、空手道における基本動作(その場基本、移動基本、形)や、対人技能(組手、分解組手)の習得を目指す。又、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方、(礼法、所作等)を大切にすることを態度を養う。更に我が国固有の伝統的な運動文化として継承・発展してきた空手道の特性や歴史、伝統的な考え方を理解し、互いに安全に配慮して協力し合う考え方を身につける。
2	石井兼輔	武道指導・評価法(柔道)	2	1	学部等共通科目	全日本柔道連盟教育普及委員としての実務経験のある教員による授業。柔道の歴史と特性を理解し、柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それを生かした攻防ができるようなレベルに達することを目標とする。 同時に、中学、高等学校の学習指導要領の趣旨を生かした教科体育における柔道指導法を学習する。 具体的には、「礼」に代表されるような武道の伝統的な考え方を理解し、互いに尊重し合って練習や試合ができるような柔道指導の在り方や、安全で効果的な実技指導の手順と指導上の留意点、さらには、試合の運営方法と新しい学習観に立った評価法である。 柔道の段位を有しない学生は、この授業を通して可能な限り段位の修得を目指す。
3	伊藤清良	体育指導・評価法(器械運動)	2	2	学部等共通科目	オリンピック強化指定選手、審判員および高等学校の保健体育科教員としての実務経験のある教員による授業。 「器械運動」の特性を理解し、「マット運動」「とび箱運動」「鉄棒運動」「平均台運動」の基礎技、発展技やその組み合わせなどを習得するとともに、それらの体系的、系統的学習方法、技術的留意点、安全な学習方法、評価の観点などについて学習する。特に、運動指導の基礎となる「創発分析能力」(自らができるようになっていくときの「動ける感じ」を分析する能力)を身に付けるためには、実技実習が不可欠であることから、「創発分析能力」の育成を目指した、技の習得に重点を置いた実技授業が展開される。
4	岩切公治	武道指導・評価法(剣道)	2	1	学部等共通科目	世界大会における外国のナショナルチーム監督としての実務経験のある教員による授業。 学校体育における剣道の授業を念頭に置き、初心者を対象とした指導のあり方を学習する。剣道における基本動作・対人的技能の習得を目指す。 また、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方(礼法・所作等)を大切にしようとする態度を養う。 更に、我が国固有の伝統的な運動文化として継承発展してきた剣道の特性や歴史、伝統的な考え方を理解し、互いに安全に配慮し、協力し合う考え方を身につける。 このような剣道の学習内容に基づき、各単元毎に評価の着眼点も学習する。
5	高坂正治	武道指導・評価法(少林寺拳法)	2	1	学部等共通科目	金剛禅総本山少林寺 本部道院 道院長および高等学校保健体育科教員としての実務経験を持つ教員による授業。 中学校や高等学校での武道授業を想定して、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法・評価法を学習する。少林寺拳法の基礎知識を学習し、基本的動作、対人的技能の練習を通して、少林寺拳法の教えについて学び、理解を深め、武道授業の意義について理解する。
6	後藤 豊	体育指導・評価法(器械運動)	2	2	学部等共通科目	国際審判員としての実務経験のある教員による授業。 「器械運動」の特性を理解し、「マット運動」「とび箱運動」「鉄棒運動」「平均台運動」の基礎技、発展技やその組み合わせなどを習得するとともに、それらの体系的、系統的学習方法、技術的留意点、安全な学習方法、評価の観点などについて学習する。特に、運動指導の基礎となる「創発分析能力」(自らができるようになっていくときの「動ける感じ」を分析する能力)を身に付けるためには、実技実習が不可欠であることから、「創発分析能力」の育成を目指した、技の習得に重点を置いた実技授業が展開される。
7	櫻井健一	体育指導・評価法(陸上競技)	2	1	学部等共通科目	日本オリンピック委員会 強化スタッフとしての実務経験のある教員による授業。 学校体育では、様々な運動の基本として、走・跳・投を扱うとともに、個人の運動能力を技術的・体力的に高度に発展させ、自己の持つ運動能力を最高度に発揮して記録の優劣を競うことを目標に、陸上運動から陸上競技へと導く。 近代スポーツ誕生から陸上競技の歴史と特性を理解し、基本的技術の模範と指導、安全管理における配慮とともに競技会運営における要点を習得する。 以上のように、陸上競技の実践を通じて自らの技術を向上させ、指導法と評価の方法を学ぶ。
8	徳永文利	体育指導・評価法(バレーボール)	2	1	学部等共通科目	ユニバシアード競技大会チームリーダー・監督および実業団での指導の実務経験のある教員による授業。 バレーボールの特性と技術構造を十分に理解する。そして、サーブ、アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、スパイク、ブロックのゲームを構成する基本的な技術に関して学習を進め技術を習得していく。さらに各技術の習得各段階における評価法を学ぶ。 また、チームスポーツであるバレーボールにおいて、連続的に展開していくチームプレーの技術習得とその評価法について学ぶ。 さらに、安全かつ公正にゲームを進めていくためにラインジャッジ、スコアラーなどゲーム進行に関わる審判技術もあわせて学習する。
9	皆川孝昭	体育指導・評価法(バスケットボール)	2	1	学部等共通科目	県の競技協会における育成担当者としての実務経験のある教員による授業。 学習指導要領におけるバスケットボールの取扱いを学び、「ボールを操作する技能」と「ボールを持たない動き」さらに「ゲーム展開」に至るまでの指導・評価法を学習する。 まず、バスケットボール競技の特性と歴史を知るとともに、バスケットボールの文化的意義や競技を通じた人間形成についての理解を深めた上で、競技を正しく・安全に行えるよう、最新のルールや審判法及び施設・用具に関する知識を習得する。
10	矢崎利加	武道指導・評価法(柔道)	2	1	学部等共通科目	日本柔道連盟強化委員および国際審判員としての実務経験のある教員による授業。 柔道の歴史と特性を理解し、柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それを生かした攻防ができるようなレベルに達することを目標とする。 同時に、中学、高等学校の学習指導要領の趣旨を生かした教科体育における柔道指導法を学習する。 具体的には、「礼」に代表されるような武道の伝統的な考え方を理解し、互いに尊重し合って練習や試合ができるような柔道指導の在り方や、安全で効果的な実技指導の手順と指導上の留意点、さらには、試合の運営方法と新しい学習観に立った評価法である。 柔道の段位を有しない学生は、この授業を通して可能な限り段位の修得を目指す。
合計単位数			20			